

2024 年度 「卒業時修得していたい力」 アンケート集計結果

教務委員会

アンケート対象者：2024 年度卒業生 73 名

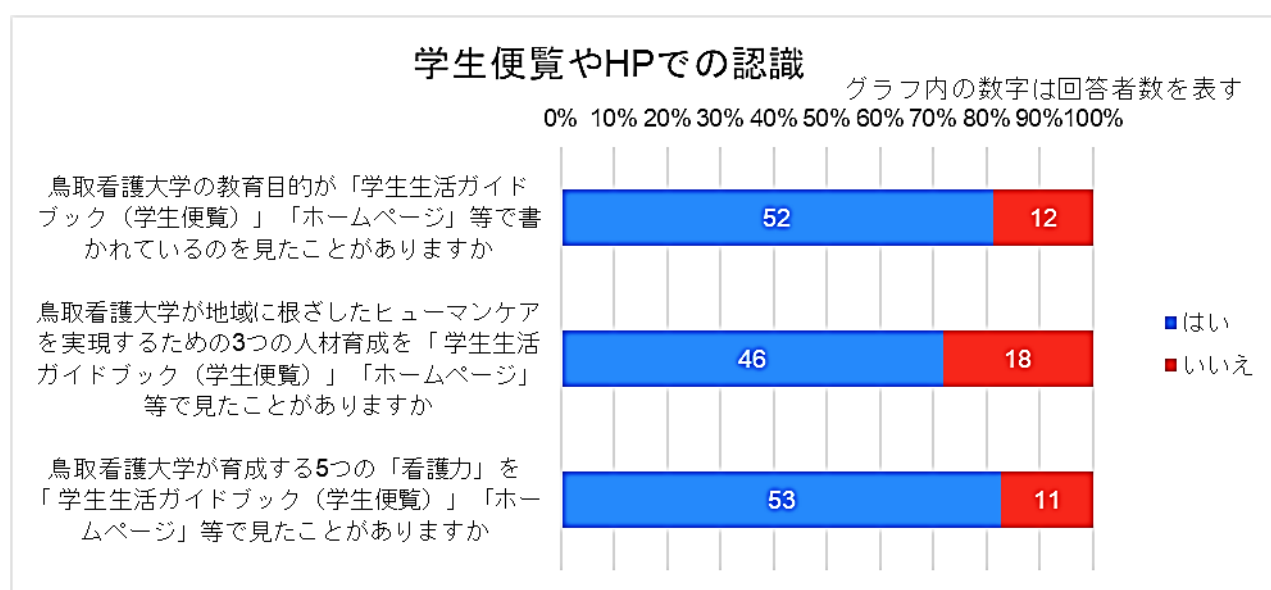
アンケート実施期間：2025 年 3 月 4 日（免許申請説明会当日）

収集方法：Google Forms にてアンケート回答入力依頼

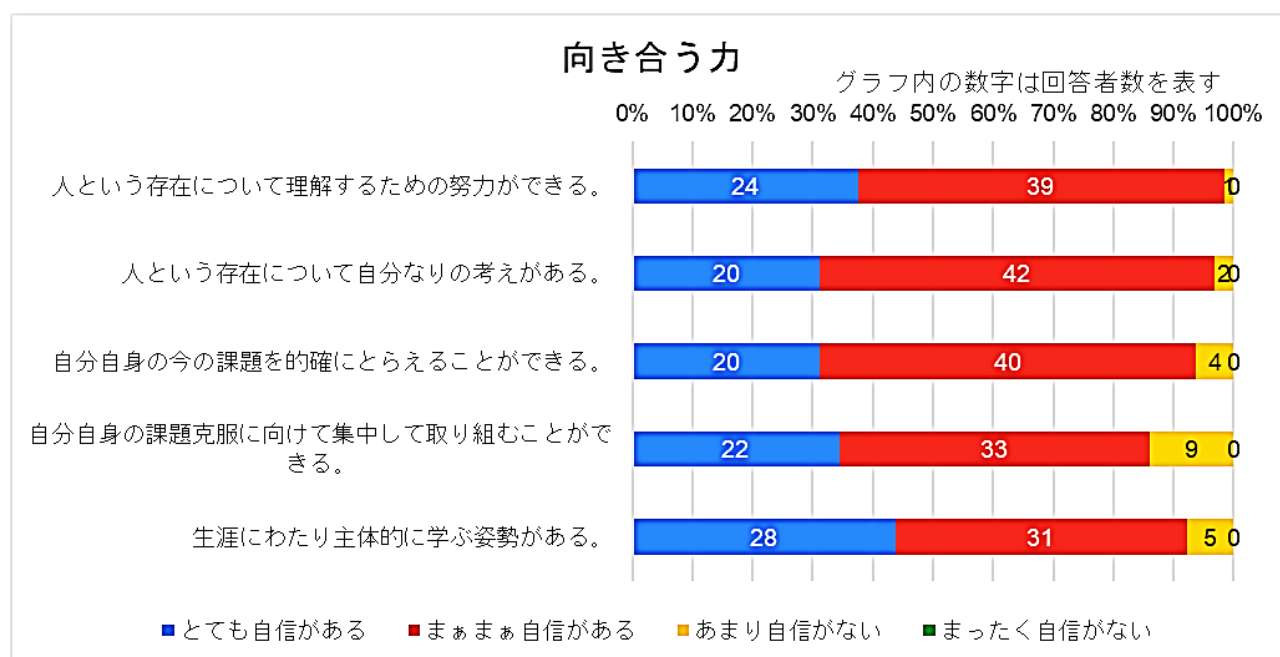
回収率：87.7%（64 名／73 名），有効回答率 100%

I. 結果：

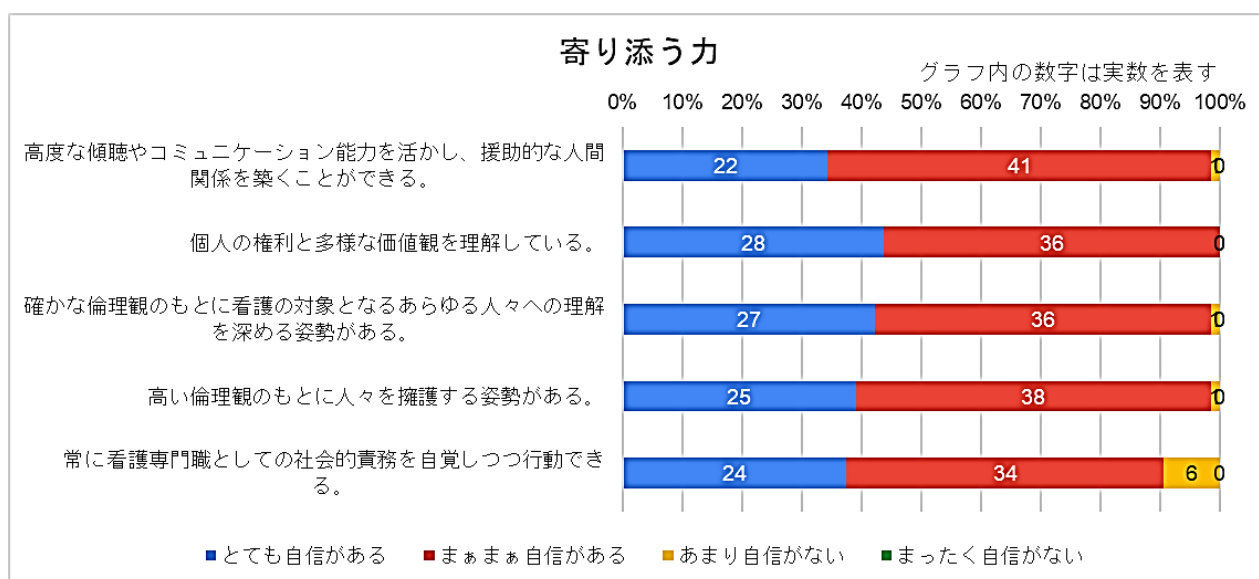
1. 教育目的、人材育成の方針、育成する 5 つの「看護力」の周知



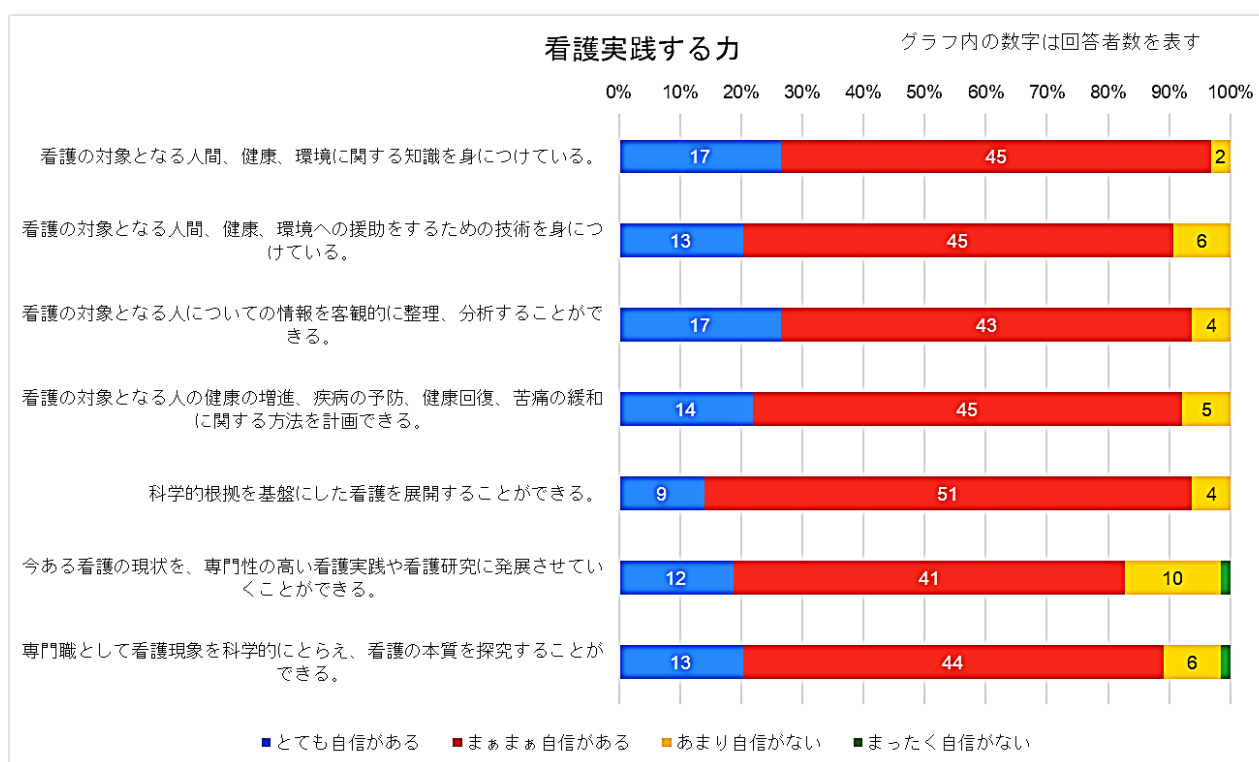
2. 「向き合う力」について



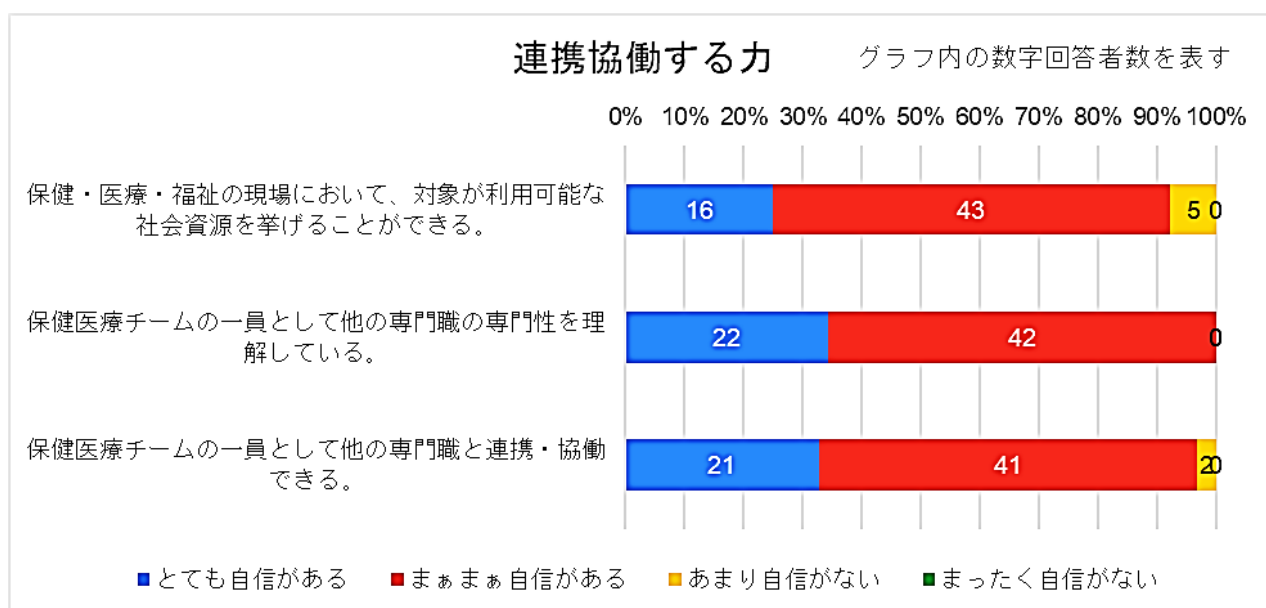
3. 「寄り添う力」について



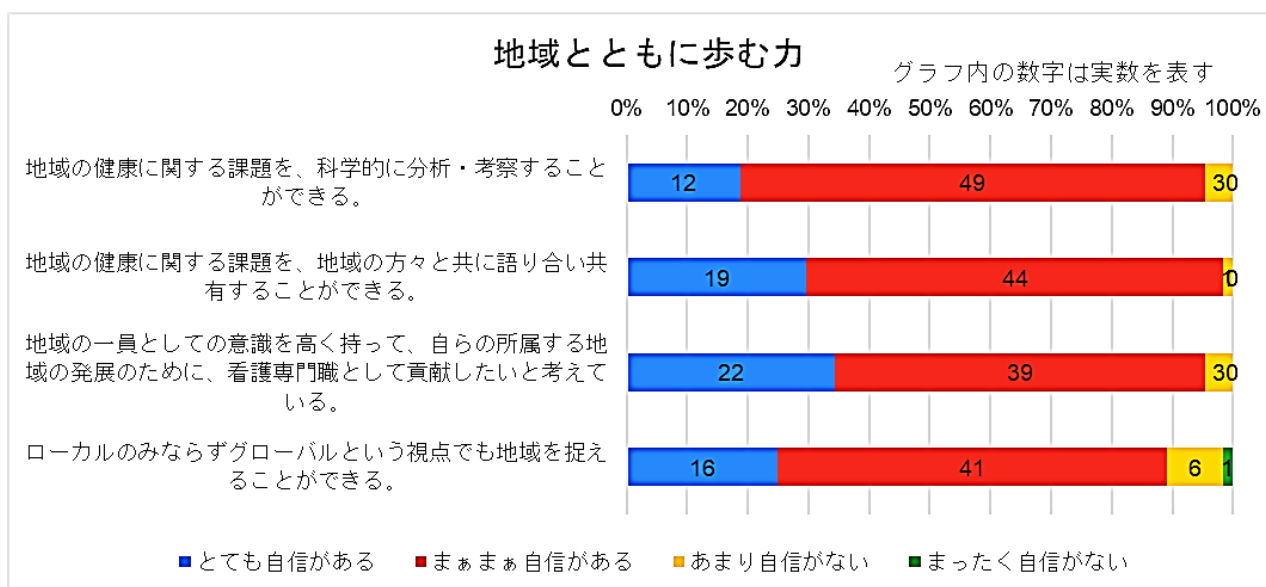
4. 「論理的に看護実践する力」について



5.「連携・協働する力」について



6.「地域とともに歩む力」について



II. 考察：

- 今年度も昨年度同様、看護師資格申請書類に関する説明会の日にアンケートを実施した結果、十分な回収率が得られた。
- 学生便覧や HP で、「教育目的」「育成する 5 つの『看護力』」「人材育成の方針」について認識しているかについて、昨年の結果と大きな変化はなく、概ね認識できている。しかし、毎年度 2～3 割程度の学生が「1. 教育目的、人材育成の方針、育成する 5 つの「看護力」の周知」の各項目について「いいえ」と回答している。これは卒業時までディプロマポリシーを見たことがない、もしくは認識できていないということであるため改善することが求められる。
- 5 つの力については、下記の 2 項目以外において 90%を超える学生が「とても自信がある」「まあまあ自信がある」と回答しており、多くの学生が本学のカリキュラムの中で、ディプロマポリシーに適った力が身についたと考えているといえる。
- 今年度の結果では、【寄り添う力】の「常に看護専門職としての社会的責務 を自覚しつつ行動できる」と、【論理的に看護実践する力】の「今ある看護の現状を、専門性の高い看護実践や看護研究に発展させていくことができる」の 2 項目について、「あまり自信がない」「まったく自信がない」と回答した学生の割合が昨年度よりも増加した。今回の調査対象者までは 2019 年度のカリキュラムが適用されているため、カリキュラムが直接的な要因であるかは判断しにくい。しかし、4 年次科目体系化に関するアンケート結果においても、看護研究に対する負担感を訴える意見が複数見られ、就職活動、実習、国家試験対策といった多重課題と並行して看護研究に取り組むことに対し、興味よりも困難を感じる学生が現れ始めている可能性が示唆される。また、学習が進むにつれて、学生がこれらの 2 項目について現実的な自己評価を行うようになったことも考えられる。理想と現実のギャップを認識し、自身の現状をより客観的に評価できるようになった結果、自信がないと感じる学生が増加した可能性がある。
- 一方で【連携協働する力】の「保健医療チームの一員として他の専門職の専門性を理解している」は「とても自信がある」「まあまあ自信がある」の回答で 100%を占めている。これは、COVID-19 が 5 類に定められたことにより、4 年間を通して必ず臨地で実習できており、現場で多職種の姿を見ることで役割を認識する力につながった可能性がある。
- 来年度は 2022 カリキュラムの学生が初めて卒業する年である。中でも地域志向科目を体系化したことから【地域とともに歩む力】に関しての回答に注目したい。

以上